

特集 「子育て」と「お金」親子で学ぶマネー術

子育て世代のママ&パパの中には、お金についてきちんと学ぶ機会を持たずに親になった人が多いのでは？あやふやなままにしている「お金のこと」、子育て中の編集委員といっしょに学んでみませんか。



FPmama Friends おこづかいセミナー認定講師
FP(ファイナンシャルプランナー) 小笠原智佳子さんによる
「お金の勉強会」に参加しました。

小笠原智佳子さん
金融教育を学び伝える
クレジットカードなど見えないお金の流れがある中、子どもたちにどのようにお金の大切さを伝えたら良いか、その難しさに直面した経験が、現在の仕事に繋がったのだそう。
幼少期のお金の失敗は小さくて済むので、小さいうちから金融教育を始めることが大事だという。
現在2人の男の子のママ。日々の暮らしの中にも金融教育をとり入れながら、子育てを楽しんでいる様子うかがえました。



▶お金の勉強会の様子

お金って何だろう？～3つのはたらき～

- ① 交換する
お金を出すとほしいものが手に入る
- ② 貯めることができる
貯めておくことで、必要なときにまとめて使うことができる
- ③ 価値の大きさを表す
金額の差で、価値の差を表すことができる



お金を大切に育てるための第一歩

「ニーズ」と「ウォンツ」

価値判断の訓練で“子どもの金銭感覚”を養おう！

ニーズ
日用品や文房具など生活に必要なもの

親が買う

ウォンツ
おもちゃやお菓子など「あつたらいいなあ」と思うほしいもの

子どものおこづかいで買う

ニーズ(必要なもの)とウォンツ(ほしいもの)の仕分けに慣れたら **おこづかいちょう** を活用してみましょう！

▲小笠原さんのお子さんが実際に活用している「おこづかいちょう」

「おこづかい教育」で身につく3つの力

お金を有意義に使う力

「おこづかいください」

もらったら「ありがとう」をセットにお家のお金は、お父さんやお母さんが働いて得た「がんばりの証」。それらを分けてもらっているものが「おこづかい」です。感謝の気持ちをもって、自分のために「有意義」に使ってほしいものです。

自分で考えて決める力

自分のお金をコントロール

「ニーズ」と「ウォンツ」のちがいを理解することで、金銭感覚が身につきます。また、自分の考えを整理し、相手にわかりやすく伝える交渉力が鍛えられるので、お金に関する親子のコミュニケーションにも期待がもてます。

自分を肯定できる力

子どもの価値観を尊重

金銭感覚や価値観は、夫婦や親子でも異なります。「この子はこんな使い方をするんだな」と寛容に受け止めましょう。「じぶんを認めてもらえた！」という「自己肯定感」が高まるきっかけになります。

おこづかい渡し方は？

(定額制・必要なとき・ごほうび制)

- 定額制：3人
- 必要なときに必要な金額：3人
- お手伝いなどのごほうび制：3人
- 渡していない(年齢的にまだ早い)：3人 (読者モニターアンケートより)

親子で話し合っ

ルールをつくろう

渡す金額や渡し方は子どもの性格や家庭環境に合わせて柔軟に更新



Q

おこづかいを「ごほうび」として渡していますが…問題あるの？(編集委員より)



A

おこづかいの渡し方は子どもに合った方法で

ごほうび制について

労働の対価という概念や、働く楽しさや大変さを社会に出る前に実感できるというメリットがありますが、お金に換算したり、お金のためにお手伝いをする可能性も…。未就学までが◎。

定額制がおすすめ！

「決まった金額を月に1回」など、明確に決めておくことは、お金の管理力のアップにつながります！
もらった金額の範囲内で使う方法を意識するので「やりくり上手」に！

